

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「文の組み立て」 教材名「文の組み立て」

2 単元の目標

文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。（〔知識及び技能〕(1)力）

文中の語句の係り方と語順を確かめ、意図が伝わる文に直す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順について理解している。（〔知識及び技能〕(1)力）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①文中の語句の係り方と語順を確かめ、意図が伝わる文に直す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

文中の語句の係り方と語順を確かめ、意図が伝わる文に直す。この教材では、主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師作成の短い文から主語と述語を結び、修飾する語を少しずつ加えて比べる。文が長いこと自体を誤りとせず、対応が明確かで判断する。想定する難しさは、文中の最初の名詞だけを主語と考え、文全体の組み立てを見ない。評価では、文の中での語句の係り方や語順について理解しているかを、主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 教師作成の修飾先が曖昧な文を読み、係り先に矢印を付ける。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教師作成の修飾先が曖昧な文を読み、係り先に矢印を付ける。語順や句読点を変えた案を比べ、自分の文で伝えたい関係を確認する。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。（〔知識及び技能〕(1)力）

(2) 学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「この言葉は、文の中のどの言葉を詳しくしていますか」 【めあて】文中の語句の係り方と語順を確認め、意図が伝わる文に直す。 〈予想される児童の反応〉 ・主語のまとまりはどこまでか確かめたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この言葉は、文の中のどの言葉を詳しくしていますか」 教師作成の修飾先が曖昧な文を読み、係り先に矢印を付ける。語順や句読点を変えた案を比べ、自分の文で伝えたい関係を確認める。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・主語のまとまりはどこまでか確かめたい。 ・長い文は区切ると動作の関係が分かる。	教師作成の短い文から主語と述語を結び、修飾する語を少しずつ加えて比べる。文が長いこと自体を誤りとせず、対応が明確かで判断する。 想定する難しさ：文中の最初の名詞だけを主語と考え、文全体の組み立てを見ない。 評価では、文の中での語句の係り方や語順について理解しているかを、主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 文の中での語句の係り方や語順について理解している。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・長い文は区切ると動作の関係が分かる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この言葉は、文の中のどの言葉を詳しくしていますか」。中央は、主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

